

## 特別企画

2月16日(土)

第1会場 11:30~12:20

### デバイス治療の歴史と展望

座長 庭野 慎一 北里大学医学部循環器内科学

演者 新田 隆 日本医科大学付属病院心臓血管外科

共催：第一三共株式会社

## シンポジウム

2月15日(金)

第1会場 8:30~10:00

### シンポジウム1

### 本邦の心臓突然死とデバイス活用の現状

座長 清水 昭彦 宇部興産中央病院  
三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科

#### 演者

1. 本邦の突然死予防の特殊性  
志賀 剛 東京女子医科大学循環器内科
2. 本邦の突然死予防の実態  
野田 崇 国立循環器病研究センター心臓血管内科
3. 本邦の一次予防実態とエビデンス  
三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科
4. 新ガイドラインの立場から  
栗田 隆志 近畿大学医学部附属病院心臓血管センター

1990年代後半から MADIT, MUSTT, SCD-HeFT などの ICD 一次予防植込みのデータが欧米から発表されて、特に虚血性心疾患に対して欧米では積極的に一次予防植込みが行われてきた。しかし我が国におけるデバイス登録評価委員会の J-CDTR のデータを見ると ICD/CRT-D 植込み全体患者に対する虚血性心疾患の割合は約 40%に過ぎず、また一次予防植込みも約 40%に過ぎない。一方 Brugada 症候群、特発性心室細動は約 15%に上る。これら我が国独特の疾患特異性が今後も続くのか、デバイス治療は現在のままで良いのか我々はまだ十分なデータを持っていない。今回のシンポジウムでは我が国の突然死の疾患特異性、今までの我が国のデータを見直してみたい。現状では欧米のデータをもとに治療を続けて行かなければならないわけであるが、心不全に対する内科療法の進歩により突然死が減少し、デバ

イス治療の内科療法に対する優越性を縮めているかもしれない。近々ガイドライン改定が予定されており、その改定点についても触れてみたい。

## 第2会場 8:30~10:00

### シンポジウム2

#### リードレスペースメーカー Micra植込みの実際・有用性と将来

**座長** 副島 京子 杏林大学医学部循環器内科  
草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

#### 演者

1. リードレスペースメーカー 日本における臨床成績  
草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科
2. リードレスペースメーカー ピットフォール (dislodge と perforation など)  
安藤 献児 小倉記念病院循環器内科
3. リードレスペースメーカー 安全な植込みのために  
原田 智雄 聖マリアンナ医科大学循環器内科
4. リードレスペースメーカー Micra の将来  
副島 京子 杏林大学医学部循環器内科

2017年9月待望のリードレスペースメーカーが日本の市場に登場し1年あまりが経過した。デバイスポケット、経静脈リード、鎖骨下静脈アクセスが不要になり、手術時間の短縮、被曝量の低減も達成され、患者のみならず、術者にとっても負担が軽減されることが明らかとなり、植込み数は増加している。一方で、静脈アクセス(大腿静脈)に関連する血腫や血管損傷、心タンポナーデなどの合併症、VVIRのみに限定されるペーシングモード、ペースメーカー脱落など、従来の経静脈ペースメーカーにはなかった様々な問題も現場で生じている。特に心タンポナーデは最も気を付けなければならない事象であり、頻度は欧米よりも少ないが、死亡につながる大きな合併症であるため、植込み術を行う際には心臓外科との密接な連携が必要であることをメーカー・学会、共に推奨している。今回のシンポジウムでは植込み時の合併症対策や、今後登場する新機種についても取り上げ discussion を行う予定である。

## 第1会場 16:50~18:20

★英語セッション

### シンポジウム3

#### Role of Defibrillation Devices in Various Clinical Situations

**座長** 西崎 光弘 関東学院大学学院保健センター/小田原循環器病院  
高橋 尚彦 大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座

#### 演者

1. S-ICD (Keynote) (仮)  
Martin C. Burke CorVita Health and Science
2. Need of TV-ICD: What Patients should Receive TV-ICD ?  
中井 俊子 日本大学医学部内科学系先端不整脈治療学分野